



①バサースト市長表敬訪問

飯山市国際交流事業

バサーストハイキャンパス訪問

飯山市教育委員会（城南中・城北中）と飯山高校は、平成26年11月にオーストラリア・バサーストハイキャンパスと姉妹校協定を締結しています。

本年10月には、バサーストハイキャンパスとケルソハイキャンパスの学生が、城南中と城北中の生徒宅へホームステイをしながら、両中学校の学校活動に参加するとともに、休日は飯山の自然を楽しむなど、学校と家庭とで友好を深めました。

今回、11月23日から30日まで飯山市から中高生10名が、バサースト市長表敬訪問と両キャンパスを訪問。

生徒たちは再会を喜び、バサーストハイキャンパスでの授業参加やケルソハイキャンパスでの農業授業見学等を通じて、さらに友好を深め、また南半球の自然やオーストラリアの文化など多くの事を体験してきました。最初は戸惑っていた生徒たちも、授業では、考えや気持ちを伝えようと会話に挑戦し、真夏のクリスマスを体感し、世界遺産であるオペラハウス見学や、広大な地での乗馬体験など、有意義な時間を過ごせました。

市教育委員会では、生徒たちがグローバルな視点で多くの地域について興味や関心を持ち、見聞を広め、異文化理解を深められるよう、国際交流を進めていきます。



②乗馬体験



③南半球のクリスマス



④授業参加風景



⑤休み時間等の交流

学校・保育園適正規模等検討委員会

委員会では、7月からこれまで、PTA役員など21名の委員により、前身の保育園・学校課題検討委員会の答申を踏まえ、現在の児童生徒数や将来推計、施設状況・通学方法等を確認しながら、子どもたちにとっての、より良い教育環境の検討を続けてきました。

第3回（10月）および第4回（11月）委員会では、飯山市学校・保育園の適正規模や配置等について具体的な内容が検討され、次のような方向性が示されました。

小中学校いずれも、各学年、複数学級が望ましい。そのため、小学校各学年いずれも36人以上が必要であり、将来的に統合が必要である。

これまでの議事録と資料は飯山市ホームページで公開しています。今後、答申案をまとめ、令和2年1月中旬に委員会としての答申が予定されています。



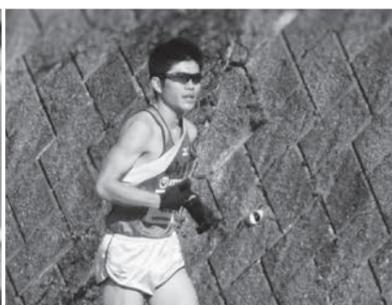
ゴールの飯田合同庁舎前で

大会2日目8位と大健闘!! 飯山栄チーム 12位 長野県縦断駅伝競走大会

総合成績 12位 (12:32:19)
1日目 13位 2日目 8位

11月16日、17日の2日間、長野県の北から南まで22区間をタスキでつなぐ第68回長野県縦断駅伝競走が開催されました。飯山栄チームでは、若手、ベテラン選手がそれぞれの持ち味を發揮し、大会2日目は、全体8位を記録するなど、今後さらなる上位を期待できる結果となりました。

総合順位は歴代最高順位に並ぶ12位で大会を終え、今大会から初の試みとなるケーブルテレビでの生中継も行われました。市民の皆様の温かいご声援ありがとうございました。



縦断 学習シリーズ

児童虐待、自分でできる支援を

飯山市人権同和男女共同参画地域推進員会長
田中 妙子

2018年3月東京都目黒区の5歳児 船戸結愛（ゆあ）ちゃん、2019年1月千葉県野田市の10歳児 栗原心愛（みあ）さん、2019年8月鹿児島県出水市の4歳児 大塚璃愛（りあ）ちゃん。いずれも親等の大人からの虐待を受け、「お父さんゆ

るして」「先生なんとかしてください」と大人たちに助けを求めたにもかかわらず、痛みと不安と恐怖の中で、短い命を絶たれました。3人の名前にはいづれも「愛」という文字が使われ、生まれたときには、両親からこよなく愛されていたことが想像されます。

かつて、まだ「児童虐待」という言葉が世の中に流布していない頃、私はある中3の女子生徒を指導しながら、私の言葉が宙をさまよひ、生徒の心に染みていないことに気付き、「この生徒もいづれ母親になる

果たして自分の子どもに仕上げや注意をするとき、どんな言葉がけをするのだろうか」と不安になったことを覚えています。

理化学研究所の調査では、児童虐待により有罪判決を受け服役した親の72%は子ども時代に虐待を受けていたそうです。さらに、親本人が精神的問題を抱えるケースや、子どもに健康発達の問題があり、子育てが難しい環境におかれていた事例も目立つという事です。

児童虐待に対して加害者を罰するだけでは不十分で、加害行動をなくするための治療や支援が必要です。加害者の育ちや人となり、虐待の経緯や原因などの情報が公開され、それらを参考に自分ができる支援のあり方に気付き、日頃から身の回りに目を向け、情報をキャッチし、治療や支援につなげる努力をしたいものです。